# 株主通信

日本証券金融株式会社

## トップメッセージ

#### ~第6次中期経営計画(2020年度~2022年度)を策定しました~



代表執行役計長 櫛田 誠希

当社グループは、2017年3月に策定した第5次中期経営計画の下で、新たな取引ニーズ の取り込み等により収益基盤の強化に努めるとともに、指名委員会等設置会社への移行を 通じてガバナンス体制の更なる強化に取組んで参りました。

当社グループを取り巻く事業環境は、超低金利環境の継続とデジタライゼーションの急速な 進展がみられるなかで、取引先ニーズの多様化など引き続き大きく変化する渦中にあります。

こうしたなかで、当社グループは、証券市場のインフラの担い手として求められている財務 の健全性を維持することを前提に、人的資源を含め当社が有する資本をより有効に活用する ことにより、免許業務である貸借取引の基盤強化と収益源の多様化への取組みを更に推進する とともに、迅速かつ効率的な業務運営体制の構築による競争力の基盤強化を図り、市場や 投資家の信認に応えて参りたいと考えています。

当社業務の核となる貸借取引業務が市況変動等の影響を大きく受けることを踏まえ、貸借取引の基盤強化のため、 貸借銘柄数の着実な増加を図るとともに、証券市場のインフラとしての機能を安定的に果たしていくため、収益 源の多様化を推進し、基礎収支額(想定貸借取引収支のもとで試算される経常利益)の着実な増加を目指す。

証券市場のインフラとしての貸借取引業務の強化

セキュリティ・ファイナンス業務の拡充・強化

新規業務の開発と具体化

資金の効率的活用としての有価証券運用の多様化

業務管理体制の強化

効率的な業務運営による競争力の基盤強化

多様な働き方への対応と企業活力の向上

〈経営目標・戦略とリスク管理を一体運営するための枠組み〉 リスクアペタイト・フレームワークの活用

# **TOP INTERVIEW**

# トップインタビュー



#### 2020年3月期(第110期)の 決算についてお聞かせください。

2020年3月期(第110期)は、第5次中期経営 計画の最終年度となりますが、引き続き収益基盤 の強化に向けた取組みを推進いたしました。

昨夏以降、株式市況が堅調に推移する中で、貸借取引では 融資残高については第3四半期にかけて前年割れで推移 するなど苦戦を強いられた一方、貸株残高が概ね前年を 上回る水準で堅調に推移しました。貸借取引以外の資金の 貸付では現金担保付株券等貸借取引(株券レポ取引)の利用 も増加し、有価証券貸付業務においては債券営業部門が 好調を維持しました。加えて、子会社日証金信託銀行㈱も 増収となった結果、連結営業収益は291億円(前年同期比 19.7%増)、同営業利益は41億円(同3.7%増)と前期を 上回りました。同経常利益は48億円(同3.0%減)、同当期 純利益は35億円(同5.6%減)となりましたが、当期純利益 は期初の見込み(32億円)を上回りました。

(単位:百万円)	109期 通期	110期 通期	比較
営業収益	24,321	29,101	+19.7%
営業利益	3,981	4,129	+3.7%
経常利益	5,046	4,894	△3.0%
当期利益	3,765	3,556	△5.6%

## 新型コロナウイルス感染拡大が当社業績 に与える影響について教えてください。

2020年1月以降、新型コロナウイルスが世界で 猛威を振るっております。当社では社員の安全を 最優先としつつ、貸借取引を中心とした業務を可 能な限り継続するべく、時差通勤の奨励やテレワークの推進、 業務の多拠点化などを実施しています。

2021年3月期は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、 グローバル金融資本市場の不安定な状況が継続することが 想定されることから、連結営業利益31億円(前期比24.9% 減)、同経常利益38億円(同22.4%減)、同当期純利益27 億円(同24.1%減)を見込んでおります。

現下の状況が長期化することも念頭に、業務継続体制の強 化などを通じて証券市場のインフラの担い手としての使命を 果たして参りたいと考えております。

当期純利益	配当予想	配当性向
<b>2,700</b> 百万円	<b>22</b> 円	<b>74.7</b> %
前期比 △24.1%	前期比 <b>変わらず</b>	

#### 新中期経営計画で掲げている戦略について、 具体的な内容を教えてください。

#### 「証券市場のインフラとしての貸借取引業務の強化」

では、貸借銘柄の拡充や株券の調達力強化といっ た利便性の向上のための取組みのほか、情報発信 の強化を通じて制度信用取引・貸借取引を利用する投資家の 裾野拡大を図ります。具体的には、グループ横断での新たな サービスの提案により発行会社等とのリレーション強化を 図るほか、若年層向けのセミナーの開催やIFA(金融商品

仲介業)との協働による富裕層向けセミナーの開催等も視野

に制度信用・貸借取引の利用促進に注力します。

「セキュリティ・ファイナンス業務の拡充・強化」では、当社 がこれまで培ってきた資金取引や有価証券取引のノウハウを 有効に活用し、多様なニーズに積極的に応えるとともに、 収益機会の拡大を図ります。具体的には、スマホ証券等の ニーズ取り込みにより一般信用ファイナンスの残高伸長に 努めるほか、株券および債券の調達先および貸付先の拡充、 調達手段の多様化により、有価証券貸付業務の強化に努め ます。また、対象有価証券や通貨を拡大することにより、 海外金融機関等のニーズ取り込みにも取組んで参ります。

「新規業務の開発と具体化」では、当社が持つ証券金融会社 としての業歴を活かし、内外の関係先との連携等を通じて、 長期的視野に立った新規業務の開発・具体化を図って参り ます。信用・貸借取引関連データを活用した投資指標の開発 に一定の目処がたったことを踏まえ、今後は、当該指標の 販売によるライセンス料の獲得などにも取組んで参ります。

「多様な働き方への対応と企業活力の向上」では、働き方 改革、定年延長など労働の在り方が大きく変化し多様化して いる中、人事制度の見直し等により、職員が自覚とやりがい を持って働ける職場環境を整備し、職員ひとりひとりの生産 性を高め、企業活力の向上に取組んで参ります。

#### 最後に株主還元について お聞かせください。

当社は、全てのステークホルダーの期待に応える ためには、安定した収益基盤と強固な財務基盤 を維持することが大切であると考えております。 これを前提に株主還元については、「強固な自己資本を維持 しながら企業価値の増大を図るとともに、収益環境や投資 計画などを総合的に勘案し、株主への利益還元を引き続き **充実したものとしていく** ことを基本方針としております。 2020年3月期の期末配当金は、「連結配当性向60%程度 を下回らない | との方針に基づき11円といたしました(年間 配当は前期から変わらず22円)。また、2021年3月期の 配当予想についても、株主の皆様への安定的な還元を重視 する観点から22円としております。

株主の皆様におかれましては、引き続き日証金グループへの ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 業務別の営業収益 (単位:百万円)

## 貸借取引業務

#### 信用取引の決済に必要な資金・ 株券を証券会社に貸付

貸株残高の増加が寄与して前期比増収





## 信託銀行業務

#### 顧客分別金信託等の信託業務と有価 証券運用、貸出等の銀行業務

●信託報酬が過去最高を更新し、保有国債等の売却益も 増加





## 一般貸付業務

#### 証券会社の運転資金などの貸付・インターネット 等を利用した個人・事業法人への貸付など

個人・事業法人向けおよび金商業者向けの貸付残高は 減少も、現金担保付株券等貸借取引の利用増により増収





## 不動産賃貸業務

#### 当社グループ所有の不動産の 賃貸・管理

●管理テナントの満室状態が継続し、前期比増収





## 有価証券貸付業務

#### 証券会社などへの債券・株券の貸付

●一般貸株部門は苦戦を強いられたものの、債券営業 部門が好調を維持した結果、前期比で大幅な増収





## その他の業務

## 国債などの有価証券の運用ほか

●一部株式にかかる受取配当金の営業収益計上(保有区分 見直し)や投資信託等の分配金収入の増加により増収





## IR掲示板(株主様アンケート結果のご報告)

昨年12月にお送りした「株主通信第110期中間」に同封したアンケートにつきましては、2,661名からのご回答を頂きました。 皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、頂いた貴重なご意見を今後のIR活動に反映して参ります。一部ではございますが、アンケートの 結果をご紹介させて頂きます。

## Q. 当社株式の購入理由について(複数回答)

安定性・・・ 23.8%(前回比+1.3%) 第一位

第2位 配 当 ・・・ 20.7%(前回比▲0.3%)

第3位 将来性・・・ 11.8%(前回から変わらず)

## Q. 保有方針

第一位 長期(3年~)・・・68.4%(前回比+1.9%) 第2位 中期(1~3年)・・・9.8%(前回比▲0.8%) 第3位 買い増し・・・6.9%(前回比+0.9%)

#### ~自由記載欄より~

- ●インフラを担う会社として、永長く成長を続けられる会社であってほしい。
- ●中長期の安定した収益拡大に基づいた、持続的な配当増額を強く期待。
- 株価が割安過ぎる。競争相手がいない現状にあぐらをかいている。
- 株主通信やホームページの内容が充実していて事業内容が理解しやすい。

#### 会社概要(2020年3月31日現在)

号 日本証券金融株式会社 ■商 JAPAN SECURITIES FINANCE CO., LTD.

証券コード 8511

設 17 1927年7月

創 1950年2月

資 本 金 100億円

主な事業内容 貸借取引貸付、公社債・一般貸付、有価証券貸付

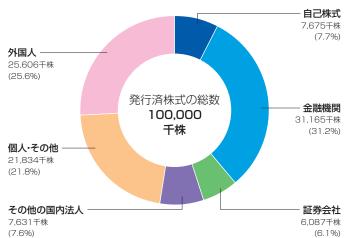
従業員数 245名

東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番10号 本 店

# 株式情報

#### 株式の状況

■発行可能株式総数 200,000千株 ■発行済株式の総数 100.000千株 ■株主数 12,839名



#### 役員一覧(2020年6月23日現在)

#### 【取締役】

社外取締役 小 幡 尚 孝 (指名委員会·報酬委員会委員長) 取締役会議長 社外取締役 野 翔 子 (指名委員·報酬委員·監査委員) 杉 社外取締役 飯 村 修 也 (監査委員会 委員長) 取 締 役※ 櫛 田 誠 希 (指名委員·報酬委員) 取 締 役 奈須野 博 (監査委員) ※は執行役兼務

#### 【執行役】

【執行役員】 平 間 執行役会長 小 林 英 Ξ 上席執行役員 靖 浩 代表執行役社長 櫛 田 誠 希 執 行 役 員 邦 下山田 守 執行役副社長 樋 俊一郎 執 行 役 員 杉 慎 Ш 豊 福 賢 小蘭井 執行役専務 島 執 行 役 員 将 執行役専務 前 田 和 宏 執 行 役 員 関口 畄 執行役常務 田 豊

#### 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率
日本トラスティ・サービス信託銀行㈱(信託口)	5,555	6.01
日本トラスティ・サービス信託銀行㈱(信託口9)	4,761	5.15
日本マスタートラスト信託銀行㈱(信託口)	4,725	5.11
公益財団法人資本市場振興財団	4,654	5.04
㈱みずほ銀行	3,536	3.83
日本トラスティ・サービス信託銀行㈱(信託口4)	3,013	3.26
STATE STREET LONDON CARE OF STATE STREET BANK AND TRUST, BOSTON SSBTC A/C UK LONDON BRANCH CLIENTS-UNITED KINGDOM	2,442	2.64
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE NVIO1	2,170	2.35
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505227	1,893	2.05
STATE STREET BANK WEST CLIENT – TREATY 505234	1,880	2.03

<sup>※</sup>持株比率は自己株式(7,675千株)を発行済株式の総数から控除して計算して おります。

#### 株式についてのご案内

年 度 4月1日から翌年3月31日まで 業

定時株主総会 6月

定時株主総会基準日 3月31日

期末配当3月31日 剰余金の配当基準日

中間配当9月30日

単元株式数 100株

株主名簿管理人および 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号

特別口座の口座管理機関 日本証券代行株式会社

(https://www.jsf.co.jp/)

₹168-8620 同 連 絡 先

東京都杉並区和泉二丁目8番4号 日本証券代行株式会社 代理人部 0120-707-843

#### ホームページのご案内

日本証券金融

検索

日本証券代行株式会社の支店および 同取次窓口 三井住友信託銀行株式会社の本支店 (「コンサルティングオフィス」「コンサルプラザ」 を除く)

当社ホームページ(https://www.jsf.co.jp/)に電子 告 方 法 公告により掲載します。なお、電子公告をすることが

できない場合は、日本経済新聞に掲載します。



